

H27年度 第1回高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：9月9日（水）14:00～16:30

場所：高知県教育センター分館 中講義室

1 議事等

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

- ・H27年度のスケジュールを説明

(2) 地域アクションプランについて

1) 追加・拡充・削除等の案件について

- ・「地域の食材を活かした包あん食品の開発・製造・販売」の削除について説明
- ・「ユズを核とした中山間農業の活性化」の事業主体追加について説明
- ・案について了承された

2) 市町村・住民等との意見交換の概要について

- ・各市町村での意見交換の概要について説明

3) 高知市地域アクションプランの3年半の取り組みの総括について

- ・全33項目について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

○追加・拡充・削除等の案件について

- ・特になし

○市町村・住民等との意見交換の概要について

- ・特になし

○3年半の取り組みの総括について

・県下のキュウリの45%は春野で生産しており、生産量1万トンの維持を目指している。本年度は10,100t、販売額は33億と過去最高であった。反収アップ対策や環境制御技術の導入・普及にも若い者が中心になって取り組んでいる。

・昨年の米価水準は食糧制度下の昭和48年頃と同水準であり、農家は苦しい。国は飼料用米・加工用米で需給バランスを図って価格を維持する方針であり、今期は全国的なその取り組みで若干持ち直したが不安要素はある。

・全国的に見ると、県中央部はコメどころの中では品質が悪く、原因は高温障害である。1等米は1%にも満たないため、品種改良が必要である。消費拡大や販売ルートの見直しにも取り組まなければならない。

・高知市の中学校給食は現状で全体の3割であるが、H30年の半ばからは全校で開始されるので、米の消費拡大に役立つと思われる。

・新ショウガは作付面積も減少しているが、土壌消毒の臭化メチルに替わるものがないのが1番の要因である。

・ミョウガは有望作物である。土佐山のミョウガは全国に名が売れ、水も豊富にあるので、中山間の有望作物として取り上げてもらいたい。

・山には木を切る技術者が少ない。バイオマス発電で木材は必要とされるが体制が十分ではない。林業学校も作られたが、そこを出た人が1人前になるのは10年先になる。

・大正7年に始まった沖合底引き漁法では、ノドグロ、ボタンエビとか高知でも流通していないものが獲れるので、消費者に知っていただき、消費してもらいたい。ノドグロは1t位獲れることもある。

→ノドグロやカニ・エビも含めて大いに提案していく。

・御豊瀬小学校跡を漁港観光、民泊等に活用できないか。子どもを連れてこないで観光の振興にならない。

→御豊瀬地区では、ポタ焼祭りから始まった「みませ祭り」の開催や浦戸湾観光遊覧船と御豊瀬漁港との連携、また、地元の干物屋さんがメヒカリや沖ウルメを使った商品開発をするなど新しい取り組みが行なわれている。漁港から至近距離にある廃校になった小学校の利活用も含め、地域の方と話し合いをしていく。

・住宅着工件数が少ないといわれるが、高知で新しい家を見かける。「県産材を使って家を建てよう」というのをもっと進めたい。リフォームや内装、家具に県産材を使うように広めていただきたい。価格的なことや、その他問題はあると思うが、何らかの対策をお願いしたい。大手メーカーの家でも県産材を使えるようになってほしい。

・御豊瀬小学校跡を活用してNPOの民間団体が活動している。高知まちづくりファンドも使わせていただいたことがある。そういう活動と地域の観光を一緒にやればいいと思う。地域のキーパーソンがどう動いているか聞かせてもらったらどうか。小学校跡は魅力的で地域の核として使っていくべきである。関係者が協力して柔軟に繋がりがあってやっていかなければならない。

・ノドグロ、ミョウガは地元消費だけでなく県外レストラン等にも向けてPRしていくべきである。青山の国連大学で地域の農産物を販売するマーケットに結構な人が集まるが、ピクルスの瓶にいろんなものが入っていて魅力的である。販売の方法、商品づくりが大事で、価格は高くても需要はある。

→食材について、雑誌やテレビなど全国発信のマスメディアに高知県の情報をどんどん出していきやり方は、今まででもやってきたが、一層拡大強化していきたい。

・飼料米をエタノール化して防虫剤にする例があり、高価だが、消費者には安全安心で売れている。

・住宅の県産材使用の補助制度を宣伝する対象を変えてみてはどうか。業務用の内装業者に伝わっていないのかもしれない。

→木材協会などを通じて工務店には広く伝えているが、補助金の対象が県産材を使ったものに限定されているので、品質保証や産地証明など難しいところはある。なお、個人住宅に関する補助制度に関しては担当課に対する相談が多く寄せられている。

・よさこい祭りには台湾など海外からの観光客もいる。ブランドづくりを深く考えるべき時である。オリンピックの年が原宿よさこい20周年であり、高知は何をしておかなければならないかを考える必要がある。経済的効果だけではなく、誇りがあってこそ続くものであり、原宿に自費で行ってくれている人にもっと誇りを持たせたい。高知のチームの踊り子は減っているのもっと増やさないといけない。子どもに向けて「来年も頑張るやろう」の意味のメダルがあれば良い。

・よさこい祭りを60年やってきているいろんな意見がある。商店街のスタッフも自腹で、「俺らがやってきた祭り、そっちへ持っていかえ。」の思いもありベクトル合わせが大変である。祭り、振興会のあり方を議論しているところであり、一元的に情報収集し、発信するようにしたい。

・そういう主催者側の動きがチーム、踊り子に伝わっておらず、来年のことで不安なことがある。もっと開かれた議論でいろんな意見を聞いてほしい。

・山の日もできる。その前日を「よさこいの日」にして、連休になるようにし、踊り子が参加しやすいようにしてほしい。また、練習場所を確保しておかないと、完成度が下がってきている。鳴子を鳴らせる場所がないので、音がばらばらで気持ち良くない。

・純粋な工業が地域アクションプランにはない。産業振興センターのものづくり地産地消外商センターに「こういうものがないか」と聞いてもらいたい。

・インバウンドについて、各個店の決済機能の充実を図る必要がある。現金払いは少なく、カード払いが非常に増えているので、環境整備が重要である。人の通訳には限りがあるので、WiFi機能など機械でできることは機械ですべきである。

・上海の発信力が高くフォロワーの多いブロガーなどを招待すればよい。安価で済むので、台湾・韓国なども含めて検討してはどうか。

・外国客船の食材に県産品が採用されるようPRすべきである。

→港湾、観光、地産外商の各担当課と外国人観光客による効果をいかに上げるかという検討をしているので、参考にさせていただく。

・寄港する船だけでなく、航路として高知沖を通る際にカツオのたたきを供する客船もある。そういった客船にも営業をかけると有効である。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp